

糖質科学で未来を創る

Exploring the Innovative Promise of Glycoscience



第70期
中間報告書

2015年4月1日～2015年9月30日

糖質科学で未来を創る

生化学工業は、糖質科学に研究開発の焦点を合わせ、
独創的な医薬品の創製を通じて、世界の人々の
健康で心豊かな生活に貢献しています。



1
糖質科学を専門分野とする
研究開発型製薬企業



2

研究開発・製造に特化した
ビジネスモデルを展開



3

高品質な製品を生み出す
高い技術力



研究開発基本方針

対象とする物質を複合糖質の構成成分のひとつであるグリコサミノグリカン (GAG)とし、重点疾患を絞り込んだ効率的な研究開発活動を推進しています。

糖質科学とは

糖鎖や複合糖質を研究する科学分野です。近年、多くの病気と糖鎖との関係の解明が進んでいます。糖質科学の研究が進むことで、新しい治療法や診断法の開発につながる事が期待されています。

10年ビジョン実現に向けて 第2ステージでの“萌芽形成”を仕上げていきます

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、2009年3月に策定した「生化学工業10年ビジョン」のもと、糖質科学分野に研究開発の焦点を絞り、国際競争力を確立する「グローバル・カテゴリー・ファーマ」としての発展を目指しています。

当中間期の売上高は、海外医薬品の数量増や円安効果により、増収となりました。利益面も減価償却費や開発テーマの進展に伴う研究開発費の増加を売上増で補い、増益となりました。

現在取り組んでいる10年ビジョン達成に向けた第2ステップである中期経営計画（2012年度～2015年度）では、“萌芽形成”、すなわち成果の芽を出すことを目的とし、各重点戦略に対して積極的な投資を行っています。

米国の成長ドライバーであるジェル・ワンは、着実に売上を伸ばしており、6月には現地営業体制が拡充されました。今後も、販売提携先を強力に支援することで、成長戦略の重点地域である米国での更なる市場シェア拡大を目指していきます。

設備面では、本年1月に生産を開始した高萩工場第5製剤棟が順調に稼働しており、本中期経営計画の目標である最適生産体制の整備が仕上がりました。

研究開発につきましては、日本で承

認申請した腰椎椎間板ヘルニア治療剤SI-6603の審査が継続しており、早期の承認取得に向け鋭意取り組んでいます。米国では第Ⅲ相臨床試験の症例登録が完了し、経過観察段階となりました。これにより、本年4月より欧州で開始した、米国での承認申請に必要なオープン試験の対象地域に米国も加わり、更なる加速が期待されます。

本中期経営計画は、将来に向けた先行投資の期間であるため、業績的には厳しい状況が続いていますが、各重点戦略は着実な進展を見せ、次のステップに向けて新芽を育みつつあります。

当社は、今後も持続的な成長を通じて株主価値の向上を目指し、高い信頼を得られるよう努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

水谷 建

配当に関する基本方針

1株当たり26円を基本とし、今後も安定的かつ継続的な配当を目指してまいります。

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
1株当たり年間配当金	26.0円	26.0円	26.0円(予想)
【内訳】	中間配当金	13.0円	13.0円
	期末配当金	13.0円	13.0円(予想)
配当性向	31.1%	40.5%	50.9%(予想)

※本「中間報告書」における当中間期とは、2015年4月1日から2015年9月30日までの累計期間を表しています。

連結業績概況

ハイライト

当中間期：2015年4月1日～2015年9月30日

前中間期：2014年4月1日～2014年9月30日

(百万円)

科目	当中間期	前中間期	増減率
売上高	15,954	14,247	+12.0%
営業利益	2,050	1,564	+31.1%
経常利益	2,575	2,109	+22.1%
四半期純利益	1,941	1,687	+15.0%
研究開発費	3,749	3,397	+10.3%

売上高は、海外医薬品の数量増や円安効果により、増加しました。

営業利益は、高萩工場第5製剤棟の減価償却費や、開発テーマ進展に伴う研究開発費が増加したものの、売上増により増益となりました。

経常利益および四半期純利益は、保有外貨建資産の為替評価減などにより、営業利益と比べ増益幅が縮小しました。

事業部門別概況

医薬品事業

ヒアルロン酸を主成分とした医療用医薬品・医療機器の製造・販売を展開する、当社のコア事業です。

売上高構成比

82.7%



■ 当中間期の業績

国内医薬品 売上高87億9百万円(前中間期比0.5%増)

関節機能改善剤アルツは、市場全体がほぼ横ばいで推移するなか、後発品使用促進の影響を受け医療機関納入本数は微減となり、当社売上は前中間期並みとなりました。

眼科手術補助剤オベガンは、競合が激化するなかで医療機関納入本数が減少し、当社売上も微減となりました。

内視鏡用粘膜下注入材ムコアップは、医療機関納入本数が増加しましたが、当社売上は前中間期の出荷が高水準であった反動を受け減少しました。

売上高/海外売上比率



営業利益/1株当たり純利益



総資産/純資産/自己資本比率





財務諸表など業績に関する詳細は、当社Webサイトの「株主・投資家向け情報」でご覧いただけます。

<http://ir.seikagaku.co.jp/> (決算説明会の動画も視聴できます。)

海外医薬品 売上高38億3千万円(前中間期比56.4%増)

米国向け5回投与の関節機能改善剤スパルツは、3回投与の競合品が売上を伸ばすなかで、販売提携先の拡販努力により現地販売は前中間期並みに留まりました。当社売上はスパルツのブランド名変更*に伴う新包装品の先行出荷や円安により増加しました。

*スパルツは、再投与の安全性に関する追加承認取得に合わせて、米国販売におけるブランド名を「スパルツFX」に変更し、2015年10月より販売を開始しました。

中国向けアルツの現地販売は、政府による価格政策変更等に伴い、医療機関における購買動向にばらつきがあったことから、ほぼ横ばいに留まりました。当社売上は販売提携先が流通方針変更により在庫水準を高めたことに加え、円安効果もあり増加しました。

単回投与の米国向け関節機能改善剤ジェル・ワンは、現地販売および当社売上が増加しました。当社では、販売提携先の合

併により拡充した現地営業体制を強力に支援することで、更なる販売数量増加を目指していきます。

医薬品原体 売上高6億6千1百万円(前中間期比1.4%増)

ヒアルロン酸の減少をコンドロイチン硫酸の増加で補い、ほぼ前中間期並みとなりました。

関節機能改善剤

アルツ®
アルツディスポ®
SUPARTZ FX™
(スパルツFX)
Gel-One®
(ジェル・ワン®)



LAL事業

医薬品・医療機器の品質管理に使用されるエンドトキシン測定用試薬などの製造・販売を国内外で展開しています。

売上高構成比

17.3%



■ 当中間期の業績

売上高27億5千3百万円(前中間期比10.9%増)

海外におけるエンドトキシン測定用試薬等の数量増および円安効果により、増収となりました。

通期の業績見通し

2015年5月12日に公表した予想から変更はありません。

(百万円)

科目	2016年3月期 業績見通し	増減率 (前期比)
売上高	30,650	+3.8%
営業利益	2,400	+0.7%
経常利益	3,800	-5.2%
当期純利益	2,900	-20.6%
研究開発費	7,850	-3.6%

※為替レート:対米ドル118円を前提としています。

研究開発活動

生化学工業は、専門分野としている糖質科学に研究開発の焦点を合わせて、新製品の早期かつ継続的な上市を実現するために、対象物質や重点疾患を絞り込んだ効率的な活動を推進するとともに、内外の研究開発ネットワークの強化にも努めています。

開発パイプラインリスト

開発コード・物質名	適応症	開発地域	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請
SI-6603 コンドリアーゼ	腰椎椎間板ヘルニア	日本 米・欧				●
SI-657 ヒアルロン酸	腱・靭帯付着部症 (アルツの適応症追加)	日本			●	
SI-614 修飾ヒアルロン酸	ドライアイ	米・欧		●	第Ⅱ／Ⅲ相	
SI-613 NSAID結合ヒアルロン酸	変形性ひざ関節症	日本		●		

※SI-615(関節リウマチ治療剤・導入テーマ)は、2015年8月に当社における開発を中止しました。

SI-6603 腰椎椎間板ヘルニア治療剤

日本：承認申請中
米・欧：第Ⅲ相臨床試験実施中

2014年1月に厚生労働省へ製造販売承認申請を行いました腰椎椎間板ヘルニアを適応症とするSI-6603については、現在、審査が継続しています。米国での第Ⅲ相臨床試験は、2015年7月に症例登録が完了し、経過観察を行っています。また、2015年4月より米国での承認申請に必要な安全性評価を主目的としたオープン試験を実施しており、欧州に加え米国での症例登録を開始しました。

※腰椎椎間板ヘルニアとは、椎間板の中心にある髄核等の一部が突出することで、脊椎周辺の神経を圧迫し、痛みやしびれを引き起こす疾患です。

経営資源を集中的に投入

研究開発型製薬企業である当社は、独自の医薬品および医療機器などの創製に取り組むため、経営資源を研究開発に集中的に投入しています。

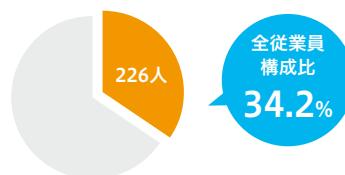
当中間期の研究開発費は、米国SI-6603などの開発テーマが進展したことから増加しました。

研究開発費 3,749百万円 (当中間期)



研究開発要員 226人 (2015年9月30日現在)

(連結ベース)



全従業員 661人

会社概要 (2015年9月30日現在)

社名	生化学工業株式会社		
創立	1947年(昭和22年)6月2日		
資本金	38億4,040万円		
従業員数	661名(連結ベース)		
事業所	中央研究所 CMC研究所 久里浜工場 高萩工場		
主な子会社	ASSOCIATES OF CAPE COD, INC. (アソシエーツ オブ ケープ コッド インク)		
役員	代表取締役社長	水谷 建	常勤監査役 福本 安志
	代表取締役専務取締役	矢倉 俊紀	常勤監査役 佐倉 義幸
	常務取締役	宮本 政臣	社外監査役 竹内 信博
	常務取締役	大西 和明	社外監査役 柴田 義人
	社外取締役	片山 英二	社外監査役 藤本 美枝
	社外取締役	林 いづみ	
	取締役	石川 慎一	
	取締役	芹沢 修	

株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	234,000,000株
発行済株式の総数	58,584,093株
株主数	12,270名

大株主の状況

	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	新業株式会社	7,843	13.8
2	株式会社開生社	7,293	12.8
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,572	4.5
4	資産管理サービス信託銀行株式会社 (みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口)	1,973	3.5
5	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,605	2.8
6	株式会社三菱東京UFJ銀行	1,536	2.7
7	科研製薬株式会社	1,207	2.1
8	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	997	1.8
9	ビーエヌワイエムエル ノントリーティー アカウント (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	719	1.3
10	有限会社桐栄興産	700	1.2

※持株比率は自己株式(1,779千株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

■ 事業年度

4月1日～翌年3月31日

■ 定時株主総会

6月

■ 配当金受領株主確定日

3月31日(なお、中間配当を行う場合の確定日は9月30日)

■ 基準日

定時株主総会については、3月31日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告する一定の日

■ 株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

《株式事務に関するお問い合わせ》

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-7111(フリーダイヤル)
ホームページアドレス

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

《住所変更等のお手続》

株主さまのお取引の証券会社

ただし、特別口座に登録された株式に関するお手続は

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(左記)で受け付けます。

《未払配当金受領のお手続》

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店

■ 公告方法

電子公告掲載ホームページアドレス

<http://ir.seikagaku.co.jp/ja/kk.html>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告します。

ひざ健康トピックス

★ 変形性ひざ関節症と肥満の関係

人が歩くときには、ひざに体重の約3.1倍の負荷がかかります。ひざに過度の負担をかける肥満は、ひざの痛みを起す病気である「変形性ひざ関節症」の大きな原因の一つであり、肥満の人は、変形性ひざ関節症になるリスクが男性で3.9倍、女性で4.2倍と高くなります*。

*吉村典子: メタボリックシンドロームと変形性関節症
骨粗鬆症治療. 6(2):117-121,2007



水中歩行

自転車

エアロバイク

やっぱり運動が大切だね!



ヒアルンくん

ひざイキイキ

ひざイキイキ

検索

<http://www.ehiza.jp/>

★ 当社Webサイトに会社紹介動画を掲載しました。

生化学工業のことをより理解してもらえるよう、会社紹介動画を当社Webサイトに掲載しました。是非一度ご覧ください。

<http://www.seikagaku.co.jp/>



生化学工業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6-1
丸の内センタービルディング
TEL: 03-5220-8950

<http://www.seikagaku.co.jp/>



本冊子は、FSC® 認証紙を使用し、「Non-VOC」の大豆油を主体とした植物油系インキを使い、印刷しています。